

モハラテクニカ

本社工場 2倍に拡張

設備も充実 高精度加工で受注狙う

【前橋】モハラテクニカ（群馬県高崎市、茂原純一社長、027・352・1700）は、本社



拡張した工場に導入した自動搬送式資材ストッカー⑤

工場の拡張工事を完了した。自動搬送式資材ストッカーを導入するなどして工場内の物流を改善。6月にはドイツのトルン

プ製のレーザー板金複合加工機の上位機種を導入し、工程の集約化と高精度加工を強みに受注拡大を狙う。設備投資額は総額で約3億円。

2階建ての本社工場を増築し、工場部分の延べ床面積は約2600平方メートルに倍増した。板金加工業の同社は多品種少量生産体制に移行したことで

資材の種類も増加し、工場が手狭になっていた。

導入するトルンプ製複合加工機「Trumpet ic7000」は、タッピング、曲げ、絞りなど幅広い加工が可能で、複数の工程を一台で完了できる。また高い加工精度や薄肉の板金加工も可能な点を訴求材料に、新規受注を狙う。

モハラテクニカは産業設備用筐体や工作機械向け部品などを製造する。2008年秋のリーマン・ショック前の売上

高4億円と比べ、現在の売り上げは8割程度。中期的な景気回復を見込み、需要低迷で投資費用を抑制できる現在、年商に匹敵する規模の設備投資に踏み切った。